

海外講演報告

報告者：トンプソン美恵子（東京海洋大学）

1.	日程	2013年 12月8日
2.	地域（概要含む）	韓国 ソウル（建国大学校 師範大学 教育科学館）
3.	担当者（人数・役割）	池田玲子（東京海洋大学） トンプソン美恵子（東京海洋大学） 房賢嬉（お茶の水女子大学）
4.	海外講演の形態	講演およびグループ活動
5.	主催 （招聘）	韓国日語教育学会
6.	テーマ（タイトル）	「ピア・ラーニングの授業デザインの実際 ー移行期から発展へー」
7.	内容の概要	<p>●池田（13:00～14:30）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義1：ピア・ラーニングの定義と背景 2. ワーク1：移行期の活動デザイン（作文・会話） 3. 講義2：発展期の授業デザインの紹介と他分野への応用 <p>●トンプソン&房（14:40～16:10）</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 講義3：発展期の活動デザイン（音声） 5. ワーク2：ピア・モニタリング活動の体験 <p>●池田、トンプソン、房（16:10～16:30）</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. まとめと振り返り
8.	参加者 （人数・背景・声など）	53名 日本人 37名 韓国人 16名 （大学教員44名 大学院生7名 その他2名）
9.	担当者の内省	<p>前日の講演を踏まえ、ピア・ラーニングを体験してもらうべく、講義を織り交ぜながらワークショップを行なった。講義に対する熱心さに加え、グループでの議論の活発さが印象的だった。参加者が日本人教師・韓国人教師概ね半々だったこともあり、多様な視点の交換を行っていた様子がうかがえた。一方で、ピア・ラーニングを導入する上で、評価、教師の役割、学生の消極性などに対する不安も挙げられた。</p> <p>グループ分けに飴を用いる、グループ活動体験のプロセスを段階的に説明するなど、ワークショップの流れ自</p>

		<p>体がピアを導入・展開する方法を示していたこととなる。参加者がピアを体験することと自身の実践を結びつけることをどこまで可能にしていたのか、そうした機会としてワークショップを位置づけるために必要な工夫は何かを検討していきたい。</p>
10.	次回への課題	<p>それぞれの実践を熱く、そして厚く語り、‘今ここ’を共有した上で、自分にできるピア・ラーニング活動を検討することで、参加者がピア・ラーニングに対して抱く不安を幾分か払拭することにつながるかもしれない。</p>
	撮影記録	